

重点戦略の考え方について

1 重点戦略の役割等について

(1) 役割

① 環境都市像の実現

2050 年度における環境都市像実現を目指して、後期計画期間内（～2020 年度）までに優先的に進めるべき取組

② 市政における重要施策と連携し、複合的な効果を発揮

総合計画との整合を図り、まちづくり、交通、産業、防災など様々な分野と横断的な連携により、同時並行的に進めることで、複合的な効果が期待できる取組

(2) 位置付け

別紙 2 環境都市像の形成期(後期計画期間終了時(～2020 年度))に掲げた取組の実現に向け、特に高い効果が見込めるものを、計画期間内に優先的に取り組む「重点戦略」として設定

2 設定方法について

(1) 検討に当たっての基本的な考え方

- 重点戦略は、本市のまちづくりに関する政策課題（ネットワーク型コンパクトシティ形成等）と合わせ、国等の短・中期の施策の動向や方針を十分に踏まえつつ、優先順位や特徴など濃淡をつけて整理する。
- 環境と社会・経済を結びつける「ひと（生活）」「まち（空間）」「しくみ」の3つの視点ごとに、“低炭素”“資源循環”“自然共生”などの施策体系を横断した関連性の強い取組を一つのまとまりとする。

(2) 具体的な重点戦略の導出方法 ※詳細は、**別紙 3**を参照

[枠組設定の考え方]

- 環境都市像で示した3つの視点（「市民の暮らしの視点(ひと)」「まちの空間の視点(まち)」「暮らしや空間を支える仕組みの視点(しくみ)」）で表現している内容を踏まえ、枠組みを設定する。

[具体的事業の選定に係る考え方]

- 計上する具体的事業は、今後、設定する“分野別施策”の体系の中から抽出する。
- 抽出に当たっては、それぞれの施策体系ごとに、環境都市像の段階的な区分に示した、**形成期（～2020 年度）に掲げた取組との関連性が高い事業を選定する。**

【例】「太陽光や蓄電池（EV）等を活用した災害にも強い住宅の普及」に資する事業

- 家庭における創エネ蓄エネの普及拡大
- エネルギー利用の効率化・最適化の推進
- 新たなエネルギーの利用に向けた検討（水素・バイオマス等）

[留意事項]

- 各分野別計画（地球温暖化対策実行計画、一般廃棄物処理基本計画、生物多様性地域戦略）における主要な継続事業についても、本市の政策課題を踏まえ、重点戦略に反映する。

重点戦略の枠組

もったいないの心で環境への負荷を抑えながら、うるおいのある地域の中で、心豊かに健康で充実した暮らしを享受できるまち

● 市民の暮らしの視点では…

みんなが“もったいないの心”を持って、自然の恵みとエコで便利なライフスタイルを満喫しながら、健康で快適に暮らせるまち

➡ 重点戦略① 「もったいない」の精神を持った人づくり

➡ 重点戦略② エコで便利なライフスタイルを生み出す行動促進

● まちの空間の視点では…

水と緑があふれる空間の中に、様々な機能をもった拠点が形成され、誰もが目的にあわせて自由に活動、移動できる利便性の高いコンパクトなまち

➡ 重点戦略③ コンパクトな地域づくり

➡ 重点戦略④ グリーンな交通システムの構築

● 暮らしや空間を支える仕組みの視点では…

みんなが“もったいないの心”で自然・文化・人・モノを大切にし上手に活用する、環境にやさしい循環の仕組みが、エコな暮らしや経済活動を支えているまち

➡ 重点戦略⑤ 持続可能な社会を支える産業や連携の形成

➡ 重点戦略⑥ 社会全体を先導する市の率先行動